

【3歳児 5月の事例】

したいことや思い通りにならないことを保育者に分かってもらって安心して遊ぶ
「保育者を見て『シュッ、シュー』」

① 自分の近くに木製電車をたくさん置きながら電車を走らせていたA児。近くで同じように電車を走らせていたB児が、A児の足元にあった電車を一つさっと取った。

② A児は、B児が持っている電車を取り返そうと、つかんで引っ張った。B児は「だめ、やめて」、A児は「やめて、返して」と言い合っているうちに、二人とも大きな声で泣き始めた。



③ 保育者は、二人のそばに駆け寄り、手を握ったり背中をさすったりしながら「Aちゃんは、電車を取られて嫌だったんだね」「Bちゃんは、もっと電車が欲しかったんだね」と言って気持ちが落ち着くのを待った。そして、二人の顔を交互に見つめながら、「AちゃんもBちゃんも電車が大好きだから、いっぱい遊びたかったんだよね」と話し、「Bちゃん、電車が欲しい時は、『貸して』って言うといいんだよ」と伝えた。



④ 保育者は、「先生も電車好きなんだよ」と言いながら、A児とB児との前に積み木でトンネルと駅を作った。そして、保育者が「ガタンゴトン、ピーッ」と言いながら、電車を走らせたり、「A君駅です。B君駅です」「止まります。シュッ、シュー」と声を出したりして遊んだ。

⑤ 二人は、しばらく保育者の遊ぶ姿を見た後、「シュッ、シュー」と声を出してそれぞれが持っていた電車で遊び始めたので、保育者は、その様子を見守った。

幼児の姿から『学びに向かう力』を読み取ると…

【興味・関心】

①自分の大好きな電車遊びを楽しんでいた。

【自己主張】

②自分の気持ちを「だめ、やめて」「やめて、返して」と言葉で表現した。

【保育者への信頼】

③④保育者に分かってもらえたと感じ、自分の気持ちを落ち着かせていった。

【安心感、満足感】

⑤保育者の近くで自分のしたい遊びをした。

学びに向かう力

自分の気持ちを調整する力

粘り強く取り組んだり挑戦したりする力

仲間と協調する力

環境の構成のポイント

「気に入った遊具で遊べるようにしましょう」

- 入園当初は、家庭的な雰囲気を感じながら徐々に園に慣れるように、家庭で遊んでいる好きな遊具を保護者に尋ねて用意します。
- どの幼児も欲しいものは手に持つことができるように数を多めに用意します。

保育者の関わりのポイント

「幼児の気持ちを受け止めたり、遊び心を発揮したりしましょう」

- 思い通りにいかなくて、悲しくなったり寂しさを感じたりしている幼児には、気持ちを察して、言葉をかけたり、手を握ったり抱きしめたりして、心を包み込むような温かい関わりをすることが大切です。



- 自分の思いを言葉で伝えられない幼児には、保育者が代わりに言葉にして伝え、伝え方の見本を示します。
- 一緒に遊びながら、保育者も遊び心を発揮して、おもちゃや動物などになりきった言動をしたり、擬音を使ったりして遊びのイメージを膨らませ、幼児の遊びを楽しくしていきます。

家庭での関わりのポイント

「幼児が園生活に慣れるよう、言葉にならない感情に気付いたり、家庭での様子を園に伝えたりしましょう」

- 少しずつ園生活に慣れてきますが、自分の気持ちを言葉で伝えるのがもどかしく泣いたりたいたりすることがあります。言葉にならない感情に気づき、幼児のつぶやきや話をしっかりと聞いてあげてください。
- 幼児たちは、初めての集団生活による戸惑いから、緊張したり、我慢したりして過ごしているかもしれません。夜泣きや爪かみ等日頃と違う様子がある時は、園の保育者に伝えてください。保育者が家庭の様子を知ることによって、幼児理解を深めることができ、一人一人の幼児に対して適切な関わりができるようになり、幼児の安心感につながります。



学びに向かう力を育むための手立て